

第九十六回楽々俳句会(ちば歩)

令和五年六月八日(木) 晴

吟行：千葉公園 九時集合 投句三句 五句選

句会場：活動センター 十時から

1 古代蓮葉陰に妣の淡き影

おじさんは舳ひのボート連れて来る

ゆるやかな空気感じる蓮の花

武久 12 待ちて今朝色香とぎほぐ蓮の花

久 14 つばくろの喜々と飛び交う奈良井宿

久 11 蜘蛛の糸光る水玉ドレミファド

武久 11 時の日や礎石武骨な国分尼寺

6 万緑の木曾の山河は深き谷

4 寄り合ひて立葉のしづく浮葉へと

4 どくだみの万の白花闇あかり

2 揚羽舞ふ飛行ルートの喇叭山

1 ぐうをする葉つばの脇の蓮の花

1 あやめ咲き蛇行の川面光り満ち

池の水さざめく朝や蓮の花

3 3 葉の反りて蓮と語らん初夏の風

蓮と語らん初夏の風

花と語らん初夏の風

2 1 灌漑や稲青々と蟬唄う

2 木道の涼風狭めすれ違ひ

1 2 朗報の翔平聡太芒種朝

1 1 蓮の掌に泡玉うごき息吹くよう

1 1 大賀蓮潜り込みたる木道かな

4 万緑や傘のアートをくぐりけり

4 蓮池の宝珠の蕾今咲かん

4 昭和史の都電のゆれや薔薇の旅

3 水玉の緑に光る浮葉かな

2 木蔭にて顔つき合わせソーダー水

2 風少し蓮の葉ゆれて開くかな

2 沈む鯉見えてさざ波風薫る

1 菖蒲みて戦争終るメッセージ

成子

武彦

静代

宣子

豊隆

粹歩

恵美子

静代

恵美子

宣子

久登

武彦

育子

育子

今日子

信雄

園子

成子

豊隆

恵美子

園子

久登

宣子

粹歩

弘子

洋子

育子

信雄

1 蓮祭り池の水面に傘飾り
利太郎
1 朝まだきふつくらと咲く蓮の花
弘子
1 軒下の口いつぱいの燕の子
洋子
1 額あじさい大和撫子しとやかや
ミチ子
しとやかな大和撫子額の花
ミチ子

1 亡母の歳近づきくるや蓮の花
亡母↓妣が良い
妣の歳近づきたるや蓮の花
ミチ子

1 懸命に咲いて疲れて蓮四日
成子

1 亀の子やお尻一振りお産かな
静代
お産は？

1 自販機もホツトからアイスへ夏使用
郁乃
お産は？

1 光受け今盛りなり蓮の森
豊隆
自販機もコールドにへと夏使用
郁乃
五七五の一七文字に

蓮の葉の古代の泡や令和の日浴ぶ
↓蓮の葉の古代の泡今日の日に
五つ角
桔梗の艶やかに秘む五つ角
が判らない

公園のハスはまだまだが紫陽花梅雨空
季語が三つある
季語を絞る

初夏の池滲んでゐたる貸ボート
五七五に纏める

池の中ダイヤの様にハスの花の水
潮島が分かりにくい

曇天の潮島にあやめ咲く
↓六月の宿江戸へタイムスリップ

江戸へタイムスリップ六月の宿場
↓六月の宿江戸へタイムスリップ

蚕豆は胎児のかたち三つ子かな
空を掴む↓空掴む

青梅のほんのり紅のさしており
空を掴む↓空掴む

蓮ゆらら空を掴むごと反りかえる
初鯉一合だけの独り酒

独り酒テレビ楽しむ初鯉
初鯉一合だけの独り酒

あめんぼうそらみて動く池の朝
踏むまじき沙羅の花びらいとおしい

踏むまじき沙羅の花びらいとおしい
風が消へたる

蓮池の風が消ゆたる笑い声
風が消へたる

参加者 洋子・恵美子・弘子・育子・ミチ子・静代・今日子・
園子・宣子・成子・郁乃

信雄・利太郎・粹歩・豊隆・武彦・久登

予定
七月十三日(木) 千葉市役所見学十二時集合
八月十日(木) 吟行なし 十時活動センター

十三時 新宿公民館
暑気払い

